



一般社団法人

沖縄住宅産業協会



令和元年度 忘年会を開催

令和元年を締めくくる忘年
会が、12月10日(火)に沖縄か
りゆしアーバンリゾート・ナハ
(那覇市)で開催されました。高
宮城啓之理事長が開会の挨拶
として、1年間の協会活動への
協力に対するお礼を述べると
ともに、新会員や来賓に向けて
協会の概要を紹介。2021年に

迫った沖縄開催の第51回全国大会への協力を呼びかけました。

また、サンエーパルコシティのオープン、ゆいレールの延伸、入域観光客数の1000万人達成、そして来年に予定している那覇空港第二滑走路の供用開始といった沖縄の景気の追い風となったトピックを挙げ、その半面、地価や建築費の高騰などといった懸念材料があるとし、不動産業界はこれからの方向性を見定める時期にきていると発言しました。

さらに、協会の今後の取り組みとして「不動産後見アドバイザー」資格講習会の県内開催を紹介。認知症を抱えた高齢者などに対して、公正な不動産取引をサポートする人材を育てるもので、高齢化社会がますます進む中、社会的な意義のある資格として多くの人に受講してほしい



いと語りました。

来賓の代表として、株式会社沖縄海邦銀行の常務取締役、新垣淳氏が挨拶。続いて協会からのお知らせとして、株式会社富士開発代表取締役の小尾一氏の全国住宅協会常務理事就任、株式会社太名嘉組会長、名嘉謙氏の黄綬褒章受章を報告、さらに新入会員である株式会社フジタ、株式会社ツナミ組を紹介しました。

次に、公益社団法人沖縄県宅地建物取引業協会会長の知念聡氏の乾杯の音頭で宴がスタート。11月13日～15日に大阪で開催された全国大会の様態を収めたVTRが流れる中、会員同士が和やかに歓談し親交を深めました。余興には、会の司会を務めるよしもと芸人の金城淳平氏と、その父親であり協会専務理事の金城淳也氏が登場。会場と掛け合いながら楽しいコントを繰り広げました。

中締めには、余興も担当した協会専務理事の金城淳也氏が再び登壇し、「2020年は全国大会沖縄開催に向けての大きなステップになる年であり、一致団結して全国大会の成功につなげよう」と挨拶。今年の定例会で恒例となった「令和締め」を会場全員で決めたところで、2019年の忘年会はお開きとなりました。

